

内閣総理大臣杯争奪「第49回西日本実業柔道団体対抗大会」  
対戦記録と戦評

男子第一部

旭化成 A がダイコロを一蹴、十一連覇の偉業達成

選手層の厚い旭化成 A は、隙のない完璧な布陣で破竹の進撃を見せた。準決勝戦では、強敵新日本製鐵を大差で降して勝ち上がった九州電力を圧倒し、決勝戦で昨年に続きダイコロと対戦。ダイコロの中量級にもたつく場面が見られるも、結果は4対0で圧勝。二十七回、十一連続優勝。

[ 第1回戦 ]

旭化成 A      5                      -                      0      戸高鉦業社

(先鋒)野田 喜明	3段	体落		崎村 和幸	2段
(次鋒)谷口 徹	3段	⊖ (指導2)		細田 真史	3段
(中堅)大鋸 新	5段	大外刈		崎村 栄一郎	2段
(副将)増淵 樹	4段	内股		赤迫 諒介	4段
(大将)木村 純	3段	体落		高橋 光一郎	4段

新日本製鐵      1                      -                      4      九州電力

(先鋒)船津 正貴	3段	技あり	⊖	川波 慎太郎	5段
(次鋒)落合 幸治	4段	大内刈		山本 泰三	3段
(中堅)齋藤 俊	3段	⊖ 有効		川野 達也	3段
(副将)森田 祥一	4段	有効	⊖	近藤 和正	3段
(大将)岡 一太郎	2段	合せ技		南 陽大	4段

ダイコ口 4 - 0 近畿通関

(先鋒)	吉園 勇太	3段	⊖	有効	珠玖 竜一	4段
(次鋒)	稲澤 真人	4段		送襟絞	浅見 友記夫	2段
(中堅)	稲葉 将太	3段		引分	鳥入 孝仁	3段
(副将)	宮下 和也	3段		横四方固	砂原 芳徹	3段
(大将)	合田 良太	3段		大外刈	土井 隆司	3段

旭化成 B 2 - 1 東レ滋賀

(先鋒)	廣瀬 尊	3段		引分	角 明典	2段
(次鋒)	角地 信太郎	5段		払腰	岡田 建彦	4段
(中堅)	田中 貴大	3段	⊖	(指導3)	浦西 大師	3段
(副将)	出口 雄樹	3段		引分	黒澤 平	3段
(大将)	白井 勇輝	4段		大内刈	磯 恵司	3段

[ 準決勝戦第1試合 ]

旭化成 A 5 - 0 九州電力

先鋒戦。巨漢同士、九州電力の新人川野が旭化成 A のベテラン松山に挑む。左右のケンカ組み手の両者は、引き手争いで共に指導 2 まで受けるが、2 分 7 秒、川野が場外際の左内股から戻った所を松山が右足を飛ばして身体を捨てる、川野はもんどりうって畳に沈む。先ずは旭化成 A が先行する。

次鋒戦。よく似た体格同士の両者の戦いも、序盤から旭化成 A の木村がケンカ組み手をものともせず攻勢に出る。九州電力の南を組み止めた 5 1 秒、左内股と見せての右小外掛で南を捻るように倒し、豪快に一本。

中堅戦。左右のケンカ組み手。九州電力の近藤は盛んに動き回るが、大鋸は落ち着いて捌く。1 分過ぎ、大鋸は腰を引いた近藤を潰して巧みに上から送襟絞に入る。1 分 1 5 秒、近藤は畳を叩き一本。

副将戦。旭化成 A の増淵と九州電力・川波との左組み同士の対戦。序盤は激

しい攻防が続くが、身長で勝る増淵が2分過ぎ、奥襟を取って左のケンケン内股で右に回り込みながら左大内刈に変化すると川波は堪らず真後ろに倒れる。増淵一本勝を決める。

大将戦。緒戦で新日本製鐵・広畑の強豪、落合を見事な大内刈で仕留めた九州電力・山本は、旭化成Aのベテラン齋藤にも果敢に挑むが、1分51秒、寝技にもつれたところを齋藤に巧みに裏返しされる。齋藤、横四方固で一本勝

(先鋒)	松山 毅	4段	小外掛	川野 達也	3段
(次鋒)	木村 純	3段	小外掛	南 陽大	4段
(中堅)	大鋸 新	5段	送襟絞	近藤 和正	3段
(副将)	増淵 樹	4段	大内刈	川波 慎太郎	3段
(大将)	齋藤 制剛	4段	横四方固	山本 泰三	3段

#### [ 準決勝第2試合 ]

ダイコロ - 1 旭化成B  
(代表戦)

先鋒戦。バランスのとれた体型同士の闘い。1クラス重い左組みのダイコロ宮下は先手を取って攻撃し、右組みの旭化成B川添が、これに応戦する展開が続く。しかし、共に決定技なく引分ける。

次鋒戦。序盤、一回り大きなダイコロ合田が、旭化成Bの出口を攻めあぐね、出口も攻撃の機会を見出せず、両者指導1を受ける。中盤以降は、逆に出口が右内股で積極的に反撃する。共にポイント無く、試合が流れ、引分かと思われた残り15秒、合田は組み際に両手で出口の右襟を掴み、強引に右大外刈で出口を横倒しにして、有効を奪う。ダイコロ、先制点を奪取。

中堅戦。中量級、ダイコロ・稲澤対旭化成B・角地。共に左組み手同士の対戦は、序盤じっくり組み合って相手の出方を窺う。1分10秒、双方に指導1。その後は互いに動きが活発となって、足技の応酬が見られたが、共に決定打を欠き、引分ける。

副将戦。ダイコロ稲葉 81kg 級、旭化成 B 田中貴大 90kg 級と中量級、軽重量級の戦い。左右のケンカ組み手の両者は引き手を求めつつ激しく動き、巴投、背負投を繰り返す。それを受が潰して寝技で攻めるも、いずれも効無く、引分け。

大将戦も軽いクラスの戦いとなった。ダイコロ吉園が右、旭化成 B の白井、左のケンカ組み手の両者は、引き手の争いが続く。両者、時折放つ背負投も不発。こうした中、3分2秒に吉園が白井を押し込んだ所を、白井は場外際で低い体勢から払腰で合せると吉園はごろりと横転して有効となる。旭化成 B 最終局面でタイに持ち込み、代表決定戦となる。

代表戦は、稲葉と田中、副将戦の再現となった。副将戦以上に激しく動く展開で、序盤は田中が捨身技で先行するが、中盤以降は稲葉が小内刈、右の背負投、左一本背負投を連発し、稲葉攻勢の印象を与えて試合終了。判定の結果は赤旗3本上がり、稲葉に凱歌上る。ダイコロは昨年に続いての決勝戦進出。

(先鋒) 宮下 和也 3段	引分	川添 佑 4段
(次鋒) 合田 良太 3段 ⊖	有効	出口 雄樹 3段
(中堅) 稲澤 真人 4段	引分	角地 信太郎 5段
(副将) 稲葉 将太 3段	引分	田中 貴大 3段
(大将) 吉園 勇太 3段	有効	⊖ 白井 勇輝 4段
(代表) 稲葉 将太 3段 ⊖	判定勝	田中 貴大 3段

#### [ 決勝戦 ]

旭化成 A      4      -      0      ダイコロ

先鋒戦。体格とパワーで圧倒する旭化成 A の松山も、81kg 級のダイコロ稲葉を持て余し、稲葉も、組み際に勝機を見出そうとするが果たせず。見るべき攻防も無く、1分33秒と2分25秒にそれぞれ指導を受けて、緒戦を引分ける。

次鋒戦。大型選手同士の一戦。旭化成 A の木村は右内股、ダイコロ合田は右大外刈で、時折相手をぐらつかせるが、あと一つ及ばず。39秒には木村が不

用意に片襟を握り指導を受ける。しかし、その後は徐々に木村のペースとなつて、2分11秒に合田に指導1。そして迎えた3分11秒、激しい組み手争いの最中、木村が釣手を右片襟に持ち替え、素早く大内刈で牽制した後、右刈足を大きく伸ばし大外刈で刈り込むと、これが見事に決まり豪快な一本。

中堅戦。73kg級全柔連シニア強化選手のダイコロ稲澤は、186cm、130kg、旭化成A大鋸に引き手を許さず猛攻を凌ぐも、大鋸の巨体の前には如何とも為し難し。稲澤は攻撃機会を見出せぬまま1分35秒に両者指導1の後は、指導3まで受け、旭化成Aが2点連取。

副将戦。身長差13cmの旭化成A増淵は、ダイコロの小兵、吉蘭の巧みな右組み手に引き手を捉え切れず、やむなく両襟を掴んで左内股で攻めるが、引き手が効かずポイント奪取に至らず。一方、吉蘭は、増淵の猛攻の前に反撃機会を見出せず守勢が続き、指導2まで受けてブザー。ここに旭化成Aの27回目の優勝、十一連覇の快挙成る。

大将戦。中盤、試合巧者の旭化成Aの齋藤はダイコロ宮下の後ろに回り込むと、左内股で反撃を試みる宮下に抱き付き、股の中から前方に転がして技ありを奪う(1分33秒)。齋藤はその後の宮下の反撃を巧みに捌く。

(先鋒) 松山 毅	4段	引分	稲葉 将太	3段
(次鋒) 木村 純	3段	大外刈	合田 良太	3段
(中堅) 大鋸 新	5段	⊖(指導3)	稲澤 真人	4段
(副将) 増淵 樹	4段	⊖(指導2)	吉蘭 勇太	3段
(大将) 齋藤 制剛	4段	⊖ 技あり	宮下 和也	3段

尚、男子第1部は初戦で敗退した4チームの抽選により、戸高鋳業社と東レ滋賀の2チームが第2部に回る。